

茨城県

モデル圏域：水戸保健所圏域，筑西保健所圏域

精神障害にも対応した地域包括 ケアシステムの構築推進に向けて

茨城県では，平成25年度から保健所圏域ごとに精神障害者地域移行支援連絡協議会を設置し，精神障害者の地域移行及び地域定着支援に係る検討を行ってきた。

平成30年度からは，2保健所圏域をモデル圏域として精神障害にも対応した地域包括ケアシステム構築支援事業により，国選任のアドバイザーからアドバイスを受けながら精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築に取り組んでいる。

1 令和元年度の達成目標と現時点での進捗状況

令和元年度の達成目標	現時点での進捗状況
1. 管内全市町(6市町)が定例的な協議の場を設ける	2市町が自立支援協議会での定例開催となっている。 他にも自立支援協議会での開催を検討している市が3カ所, 別設定の開催を検討している自治体が1カ所ある。
2. 市町の協議会時に地域課題とその解決策が検討できる	地域課題は出せているが, 解決策が出せている市町は4市町に留まっている。

2 圏域の取組における強みと課題

【特徴(強み)】

- 1, 水戸保健所圏域(3市3町)には, 県立病院をはじめとする精神科病院(3市1町に各1か所), 相談支援事業所(元地域活動支援センター I 型事業所)等, 関係機関が多い。
- 2, 地域課題を検討する場に参加した各医療機関が, 地域とのつながりを大切に考えている。

課題	課題解決に向けた取組方針	課題・方針に対する役割(取組)	
地域課題を協議する場の活用が図られていない(地域課題の抽出まで進まない)	1, 協議を継続して行っていく 2, 協議の際, 目的を再確認(共有化)する 3, 各関係機関が, 地域支援に必要なスキルアップを図る	行政	協議の場を定例的に設定する
		医療	提供事例の地域生活スキルの評価等を事前に行い, 協議に参加する
		福祉	協議への参加をととして精神障害者の特性などをさらに学ぶ
		関係機関・住民等	協議への参加をととして精神障害者の特性などをさらに学ぶ
地域課題を協議する場を活用し, 関係機関が相互に強みを認識し支援方針を話せる協議運営とはなっていない	1, 協議の手法や内容を運営の中核組織者と検討する 2, 各関係機関が自らの強みを発揮する	行政	協議会開催前に中核組織者と検討する場を設ける
		医療・福祉	協議会で医療・福祉の知識等ミニ講演会等を行う
		関係機関・住民等	協議会に参加し, 積極的に意見を述べる
課題解決の達成度を測る指標	現状値 (今年度当初)	目標値 (令和元年度末)	見込んでいる成果・効果
①協議会の各回毎に地域課題が出せ, 解決策を検討できる	1~2個の課題	課題の解決策の検討	事例検討から地域課題を抽出し, 解決策を検討することが当たり前になり, 地域づくりが進む
②協議の場で, 各機関の強みを発揮した活動[できること]を検討する	検討に至っていない	検討する	各機関の強みが発揮され, 横の連携が取りやすく, 障害者の地域生活を支えやすくなる

3 病院（医療機関）との連携状況

- 1, 保健所から, 各市町の協議会検討委員としての協力及び保健所の会議等への参加を依頼
 - ・管内医療機関4カ所には, 所在地の各市町の検討委員として対応を依頼
 - ・管外であるが近隣の医療機関には, 地域性(利用患者が多い・長期入院患者が多いなど)を勘案し, 同様に上記4市町以外の市町への対応を依頼
 - * 上記の医療機関の他, 各市町の担当が参加を依頼したい医療機関への依頼は制限しない(必要な場合は, 保健所も仲介する)
- 2, 市町から, 各市町協議会検討委員として参加を依頼
- 3, 医療機関の役割
 - ・検討委員として保健所及び各市町の協議会に参加
 - ・検討事例の提供
 - ・医療の観点からの対象者の捉え方等学びの情報提供

4 現時点での課題・悩み

- 1, 管内市町の各協議の場において、課題の具体的な解決策の話し合いが進まない
- 2, 市町間で取り組みに差ができているため、一律に事業展開の手法を例示し、実践して頂くという方法では対応できなくなった

茨城県

モデル圏域 筑西保健所圏域

協働し合い・支え合える地域づくり ～精神障害者支援の顔の見える関係を生かして～

筑西保健所では、精神障害にも対応した構築支援事業を取り組むにあたり、地域移行支援に関する目標設定や具体的な進め方が明確ではない。管内には、精神科病院3か所(うち入院可能2)、精神障害者の地域援助事業所をはじめとする社会資源が少ない状況。また、指定事業所となっても実績がないところも複数あるが、詳細を把握できていないのが現状である。一方、地域の関係者の協力を得て、「こころの生活支援手帳」を作成するなど、関係者同士の顔の見える関係のもと協働し合うことに期待できる。

1 令和元年度の達成目標と現時点での進捗状況

令和元年度の達成目標	現時点での進捗状況
1. 管内全市(3市)が定例的協議の場を設ける	7/12 研修会, 9/19 協議会開催 各市町 第5期障害者福祉計画での協議の場 設置の考えを表した。 市町別にグループワークをして協議の場の 体験をした。
2. 協議会時, 地域課題とその解決策が検討 できる	9/19 保健所の協議会において, 市町別にグ ループワークをし, 地域の課題を抽出方法を 体験をした。 ・地域の資源から考える ・事例から考える

2 圏域の強みと課題

【特徴(強み)】

- H25年度から実施している地域移行支援連絡協議会により、関係機関・関係者同士の顔の見える関係は既にできていること。
- 精神障害者支援に積極的に取り組んでいる事業所や家族会があること

課題	課題解決に向けた取組方針	課題・方針に対する役割(取組)	
○地域移行に向けての理解と取り組みの必要性に対する関係機関の認識向上	○国の動向や具体的な方策について、関係機関へ情報提供する ○地域の特性を活かし、課題解決に向けた取り組みを考える	行政	施策の方向性を理解する
		医療	医療機関の役割を理解し協力できる
		福祉	施策の方向性を理解し協力できる
		その他関係機関・住民等	地域の機関として、理解者として協力できる
○地域移行としての関りが少ないため、関係機関の役割を理解し、具体的な支援を考える事例検討の機会が必要	○地域移行に対する意見を整理する ○地域移行に向けた事例検討を行い、個別性を踏まえた具体的な支援を考える	行政	地域の実情を理解し、対応方法を検討できる
		医療	医療機関の役割を理解し協力できる
		福祉	役割を理解し協力できる
		その他関係機関・住民等	地域の機関として、理解者として協力できる

課題解決の達成度を測る指標	現状値 (今年度当初)	目標値 (令和元年度末)	見込んでいる成果・効果
①地域の課題解決に向けた話し合った内容	10項目の課題	課題の解決策	地域を理解し強みを活かし課題解決できる
②事例検討の数 協議する場の設定回数	未確認	未設定	具体的に支援の方策を考え役割を認識できる
③対応事業所の数 支援機関の数	未確認	未設定	サービス提供に繋がったことの確認

3 病院（医療機関）との連携状況

- ・今年度の研修会，保健所主催の精神障害者地域移行支援に係る連絡協議会に圏域内及び近隣の精神科病院へ参加を要請し，地域移行推進の理解を図り，市町・支援事業所等関係機関と地域支援についての意見交換を図っている。
- ・保健所主催の協議会の際に，医療機関から事例を提供を依頼し地域支援を考える契機となるよう意図している。
- ・退院前のカンファレンスには，市町担当課（保健，福祉）の出席を要請し，事例を通じて退院後の地域生活支援を共に考える機会としている。
- ・事例を通じて，地域の課題やニーズ等 PSWに個別の意見を聴取している。

4 現時点での課題・悩み

- 管轄内が目指している、精神障害者の地域包括ケアシステムの構築体制と協議の場、地域支援拠点についてどの様に考え取り組んでいるか不明であるため、調査票による質問と聞き取りを行いたい。

どのような項目を入れるといいのか検討中。

- 管轄内の市町の取組みに差があるなかで、どのように支援すればいいのかわ考えが及ばない。うまくいった市町支援の事例を知りたい。

- 11月1日付で保健所再編により、下妻市、八千代町が管轄となる。
常総保健所での地域移行支援についてのこれまでの取組みや、今後の見込み等 引継ぎが必要。